

**令和5年度宮城県試験研究機関評価委員会
(第2回農業関係試験研究機関評価部会)
研究課題に係る評価実施結果**

1 評価委員

評価委員名	所属・職名等		摘要
中村 聡	公立大学法人 宮城大学食産業学群	教授	部会長
菊地 郁	公立大学法人 宮城大学食産業学群	准教授	副部会長
麻生 久	国立大学法人 東北大学大学院農学研究科	教授	委員
西條 由美恵	農業者		委員
佐々木 均	農事組合法人仙台イーストカントリー	代表理事	委員(欠席)

2 評価対象課題

評価対象課題名	概要	実施期間	予算額	摘要
(1) 「みどりの食料システム戦略」を実現するための環境調和型害虫防除技術の開発 (農業・園芸総合研究所)	土着天敵活用技術や IPM 体系の改良と高度化等について検討し「みどりの食料システム戦略」の目標達成に向けた技術開発を行うとともに、環境負荷低減による「宮城型環境調和農業生産システム」の構築に向けた研究を行う。	令和6年度～令和10年度	5,000千円 (R6: 1,000千円)	事前評価
(2) RTK-GNSS を活用した効率的な水稲移植法の検討 (古川農業試験場)	RTK-GNSS を活用した、収量データに基づく可変施肥等の効果や環境負荷を低減する水稲無落水移植法(湛水移植)を検討するとともに、効率的な水稲機械化体系の構築を図る。	令和6年度～令和8年度	4,167千円 (R6: 1,389千円)	事前評価
(3) 環境負荷低減に向けたトマト、パプリカの栽培実証 (農業・園芸総合研究所)	エネルギー使用量の削減と脱炭素社会の実現に向け、グローパイプを活用した局所加温技術や保温資材の活用による燃料削減、高温期の外気導入技術やホルモン剤の利用による着果安定等による夏越し栽培技術の確立に向けた実証試験を行う。	令和6年度～令和8年度	9,696千円 (R6: 3,232千円)	事前評価
(4) 土地利用型作物の病虫害防除技術の検討 (古川農業試験場)	現在、土地利用型作物において問題となっている病虫害の発生生態や発生促進の要因等について明らかにするとともに、効果的な防除技術を確立する。	令和6年度～令和10年度	9,835千円 (R6: 1,967千円)	事前評価

3 評価項目

- (1) 研究目標のニーズ適合性・地域への貢献度
- (2) 緊急性・優先性
- (3) 独創性・先進性・優位性
- (4) 市場性・成長性
- (5) 実現可能性
- (6) 人・予算・設備等の推進体制
- (7) 総合評価

4 評価結果(コメント等は別紙参照)

- (1) 「みどりの食料システム戦略」を実現するための環境調和型害虫防除技術の開発
事前評価 「ぜひ採択すべきである」

(2) RTK-GNSS を活用した効率的な水稲移植法の検討
事前評価 「ぜひ採択すべきである」

(3) 環境負荷低減に向けたトマト、パプリカの栽培実証
事前評価 「ぜひ採択すべきである」

(4) 土地利用型作物の病害虫防除技術の検討
事前評価 「採択したほうが良い」

5 研究課題評価表

別紙のとおり。

研究課題評価表（事前評価）

課題コード	①	評価実施日	令和5年12月8日（金）		
試験研究課題名	「みどりの食料システム戦略」を実現するための環境調和型害虫防除技術の開発（重点的研究課題）				
試験研究機関名	農業・園芸総合研究所				
担当部署・担当者名	担当部（園芸環境部） 担当リーダー名（関根崇行）				
研究期間	令和6年度～令和10年度				

	評価項目	評 価				係 数 平 均	比 重	採 点
項 目 別 評 価	研究目標のニーズ適合性・地域への貢献度	中村 副会長	菊地 副副会長	麻生 委員	西條 委員	5.00	20%	20.0
		S	S	S	S			
	<p>S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い</p> <p>【中村副会長】 国の「みどりの食料システム戦略」を受けて策定された宮城県みどりの食料システム戦略推進ビジョンに基づき、化学農薬の使用低減、生物多様性の回復を目指した研究であり、地域への貢献度も高い。</p> <p>【菊地副副会長】 国民の食の安全安心や環境へ配慮した農業生産への関心が高まる中、総合的IPM防除技術の開発はニーズへの適合性が極めて高く、地域への貢献度も高いと考える。</p> <p>【西條委員】 多くの問題を抱える農業を持続可能にするための技術開発は重要で、豊かな環境を次世代に一つでも多く残すためにも大切な研究だと思います。</p>							
項 目 別 評 価	緊急性・優先性	中村 副会長	菊地 副副会長	麻生 委員	西條 委員	5.00	20%	20.0
		S	S	S	S			
	<p>S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い</p> <p>【中村副会長】 これまでIPM技術が開発されてきたが、システム戦略で掲げられた目標値は非常に高く、新技術を開発するには時間を要するため、早急に必要な実施がある。</p> <p>【菊地副副会長】 薬剤抵抗性の発達した害虫および病原菌の発生が深刻化しており、IPMにより薬剤以外の防除技術を開発することが喫緊の課題となっている。</p> <p>【麻生委員】 新たな総合防除（IPM）技術の開発と確立、既存技術も含めた技術の普及という大きな目標を掲げ、緊急性は高いと判断される。</p> <p>【西條委員】 宮城県みどりの食料システム戦略ビジョンを実現するために緊急性は非常に高いと思います。</p>							
項 目 別 評 価	独創性・先進性・優位性	中村 副会長	菊地 副副会長	麻生 委員	西條 委員	4.00	20%	16.0
		S	B	A	A			
	<p>S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い</p> <p>【中村副会長】 土着天敵の農業への利用はこれまでにも試みられてきたが、生物間の相互作用の解明は多くの要因が絡みあまり手を付けられてこなかった。すでに県内で活用が期待できる土着天敵を抽出しており、本研究の天敵利用の高度化は先進性がある。</p> <p>【菊地副副会長】</p>							

	<p>県における基幹作物を対象に重点的な対策をとってほしいが、全国共通の課題であるので、情報交換を活発に行い、連携するなどして迅速かつ効率的に研究を推進すべきである。</p> <p>【麻生委員】 新規に開発運用された技術を活用することになるが、「宮城県みどりの食料システム戦略推進ビジョン」を確立して頂きたい。</p>							
市場性・成長性	中村 部会長	菊地 副部会長	麻生 委員	西條 委員		4.75	20%	19.0
	S	A	S	S				
	<p>S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い</p> <p>【中村部会長】 持続可能で環境に調和した害虫防除技術は、これからますます求められる分野であり、市場性、成長性が期待できる。</p> <p>【菊地副部会長】 薬剤抵抗性害虫の発生が拡大しつつあり、代替技術の早急な開発が望まれている。また、持続可能な農業や環境保護の要求が高まる中で、環境調和型害虫防除技術の開発はこれらのニーズに応える解決策として、成長の余地が大きいと見込まれる。</p> <p>【麻生委員】 コスト面が懸念材料である。</p> <p>【西條委員】 世界的に見ても化学農薬の使用を削減し環境に考慮した持続可能な農業は成長性も非常に高く、この研究から病害虫が抵抗性を持ちにくい農薬が開発されれば市場性も極めて高いと思います。</p>							
実現可能性	中村 部会長	菊地 副部会長	麻生 委員	西條 委員		4.00	10%	8.0
	A	A	A	A				
	<p>S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い</p> <p>【中村部会長】 植生管理技術の開発においては、農生態系の多様化促進が、どのような作用機作で病害虫の発生・被害軽減に結びつくのかを5年間で明らかにできるかどうか。年によって気象条件が異なり生物の動向も変化するので、汎用性を見出すのはかなりハードルが高いと思われるが、今後の研究成果に期待したい。</p> <p>【菊地副部会長】 これまでにも、IPM技術に関する研究を積み重ねており、本研究の基礎となる知見も得られていることから、実現可能性は高いと考える。</p> <p>【麻生委員】 有望土着天敵の増殖技術確立と特定農薬としての利用は、非常に興味を持たれる。</p> <p>【西條委員】 これまで積み重ねてきた技術開発からも実現の可能性は高いと思います。</p>							
人・予算・設備等の推進体制	中村 部会長	菊地 副部会長	麻生 委員	西條 委員		3.25	10%	6.5
	B	B	A	B				
	<p>S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い</p> <p>【中村部会長】 県単で限られた予算内での試験研究で、分野も多岐にわたるため、研究を執行するに十分な施設が割り当てられるよう期待する。</p> <p>【菊地副部会長】 とくに問題はないと考える。</p> <p>【麻生委員】 「みどりの食料システム戦略」の目標達成に向けた技術開発としては、予算的に若干の不安が残る。</p>							

			100%	89.5
--	--	--	------	------

*採点の計算方法：係数（S = 5点, A = 4点, B = 3点, C = 2点, D = 1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

総合評価	評 価				評価平均	総合評価
	中 村 部会長	菊 地 副部会長	麻 生 委 員	西 條 委 員		
	S	S	S	S		

評価基準：

S：ぜひ採択すべきである **A**：採択したほうが良い **B**：計画を見直した上で、採択しても良い
C：採択の必要性は低い **D**：採択すべきではない

*総合評価の計算方法：係数（S = 5点, A = 4点, B = 3点, C = 2点, D = 1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とする。

所 見	<p>【中村部会長】 世界的な気候変動や社会情勢が大きく変動している中で、これからの日本における食料生産においては、持続可能であることがますます重要となります。本研究の環境調和型害虫防除技術の開発によって、宮城県における持続可能な農業を構築するのに必要な技術が開発されることを期待しています。</p>
	<p>【菊地副部会長】 環境に対する負荷が少なく、持続可能な農業や生態系の保全に貢献しうる本研究は、公設試験研究機関が行うべきものであり、採択すべきである。</p>
	<p>【麻生委員】 環境負荷低減型農薬や RNA 農薬、光や振動を利用した物理的手段、土培天敵や生物間相互作用を利用した生物的手段の技術開発は、地球規模の環境対策に直結していることからその確立が急務であり、「みどりの食料システム戦略」をぜひとも達成して頂きたい。</p>
	<p>【西條委員】 年々問題が増え続けている環境の中で、化学農薬の使用を削減し農業を持続可能なものにし、次世代に一つでも多く豊かな環境を残すためにも「みやぎ発環境調和型害虫防除システム」の構築が期待されます。</p>

研究課題評価表（事前評価）

課題コード	②	評価実施日	令和5年12月8日（金）		
試験研究課題名	RTK-GNSSを活用した効率的な水稲移植法の検討（重点的研究課題）				
試験研究機関名	古川農業試験場				
担当部署・担当者名	担当部（水田営農部） 担当リーダー名（門間由美子）				
研究期間	令和6年度～令和8年度				

項目別評価	評価項目	評 価				係 数 平 均	比 重	採 点
	研究目標 のニーズ 適合性・ 地域への 貢献度	中 村 部会長	菊 地 副部会長	麻 生 委 員	西 條 委 員		5.00	20%
S		S	S	S				
S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い 【中村部会長】 「宮城県みどりの食料システム戦略推進ビジョン」に示された、自動操舵システム等による省力化、作業精度向上に取り組む経営体数（2030年度に250経営体）を達成するために必要な研究である。 【菊地副部会長】 RTKを活用した新技術の導入は、環境負荷低減や省力化に貢献するニーズの高い研究と考える。 【麻生委員】 RTK-GNSS を活用したスマート農業への期待は高い。価格面での応用性が課題か。 【西條委員】 RTK基地局の利用が始まり、農業現場での省力化や効率化が今後大きく期待され、地域への貢献度は極めて高いと思います。								
緊急性・ 優先性	中 村 部会長	菊 地 副部会長	麻 生 委 員	西 條 委 員		4.75	20%	19.0
	S	A	S	S				
	S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い 【中村部会長】 宮城県ではR5年度にRTK基地局の運用が開始されており、技術普及のため、省力化や作業精度向上の課題解決に向けての検証を早急に進める必要がある。 【菊地副部会長】 農業人口の減少および高齢化から、スマート技術の推進が迫られている。RIKを活用したセンシング技術は、効率的な作業管理技術に資するものであり、優先性は高いと考える。 【麻生委員】 就農人口の低下と高齢化への打開策となることを期待する。 【西條委員】 農業従事者が減少し法人の大規模化が進む現在、水田におけるスマート農業の活用は緊急性が極めて高いと思います。							
独創性・ 先進性・ 優位性	中 村 部会長	菊 地 副部会長	麻 生 委 員	西 條 委 員		3.75	20%	15.0
	A	B	A	A				
	S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い 【中村部会長】 すでにD-GNSSガイダンスシステムを使用した研究が実施されたほか、みやぎスマート農業推進ネットワークが設置されており、RTK-GNSSレベルでの高精度作業の実用化、普及に向けて優							

	<p>位性がある。 【菊地副会長】 RTK基地局の整備は北陸、北海道など全国的に進められており、それに伴い各県がセンシング技術を活用したアグリテックの導入を行っている。情報共有を行いつつ、より迅速かつ効率的に本研究を推進してほしい。 【麻生委員】 RTK基地局が整備されたことから、その応用性が期待される。</p>							
市場性・成長性	中村 部会長	菊地 副会長	麻生 委員	西條 委員		4.25	20%	17.0
	A	A	A	S				
	<p>S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い 【中村部会長】 すでにRTK基地局の運用が開始されており、本研究の成果の普及が見込まれる。 【菊地副会長】 持続可能な農業や環境保護の要求が高まる中、RTKを用いた精密農業は化学肥料の使用量を削減し、土地や水資源の効率的な利用を促進するため、ますます需要が高まると考えられる。 【麻生委員】 RTK基地使用料、機械化コストは障害となるか。 【西條委員】 RTK基地局を利用した技術の定着が期待でき、市場性、成長性は極めて高いと思います。</p>							
実現可能性	中村 部会長	菊地 副会長	麻生 委員	西條 委員		4	10%	8.0
	A	A	A	A				
	<p>S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い 【中村部会長】 D-GNSSレベルで湛水条件下でも移植精度に問題無かったことが示されており、実現性は高い。 【菊地副会長】 RTK技術はすでに一定の成熟度を持ち、実用化されている。そのため技術的な実現可能性は高いと考える。 【麻生委員】 これまで蓄積したICT技術の応用を図って頂きたい。 【西條委員】 情報交換が活発に行われ、現場で技術が定着することを期待したいです。</p>							
人・予算・設備等の推進体制	中村 部会長	菊地 副会長	麻生 委員	西條 委員		3.25	10%	6.5
	B	B	A	B				
	<p>S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い 【中村部会長】 場内圃場で試験が計画されており、スムーズに執行できると思われる。 【菊地副会長】 農業機械メーカーと共同で行うという話だったと思うので、特に問題はないと考える。 【麻生委員】 妥当であると判断される。</p>							
							100%	85.5

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

研究課題評価表（事前評価）

課題コード	③	評価実施日	令和5年12月8日（金）		
試験研究課題名	環境負荷低減に向けたトマト、パプリカの栽培実証（重点的研究課題）				
試験研究機関名	農業・園芸総合研究所				
担当部署・担当者名	担当部（野菜部） 担当リーダー名（赤沼 岳）				
研究期間	令和6年度～令和8年度				

項目別評価	評価項目	評 価				係 数 平 均	比 重	採 点
	研究目標のニーズ 適合性・ 地域への 貢献度	中 村 部会長	菊 地 副部会長	麻 生 委 員	西 條 委 員		4.75	20%
S		A	S	S				
S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い 【中村部会長】 地球規模での気候変動に伴い夏季高温年が頻発しているほか、エネルギー価格が上昇しており、本研究のニーズは高い。 【菊地副部会長】 国際情勢の不安定化が進み、化石燃料の高騰が生産者の経営状況を圧迫している。特に植物工場では光熱水道費にコストをかける割合が高いほど赤字経営になるとの報告もあることから、本研究のニーズ適合性は高いと考えられる。 【西條委員】 価格上昇による冬場の化石燃料使用量の削減と夏場の猛暑対策、収益性の高い作物の安定生産技術は生産者からのニーズも非常に高く、早期の対応が求められているものだと思います。								
緊急性・ 優先性	中 村 部会長	菊 地 副部会長	麻 生 委 員	西 條 委 員		4.75	20%	19.0
	S	A	S	S				
	S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い 【中村部会長】 夏越し栽培での安定生産技術の開発や冬場のエネルギー使用量の低減は、生産者の経営、収益性に直結し、緊急性、優先性が高い。 【菊地副部会長】 東北大震災以降、宮城県には植物工場が多数設置され10年が経過しようとしている。担い手も次世代に移り変わろうとしている今、運営コストや収益性、地域経済への影響などを検討する時期にきており、そのような中、エネルギーの消費量を削減するための本研究の優先性は高いと考える 【西條委員】 社会情勢、気候変動からみても安定した食糧の供給ができるよう燃料費高騰への対策、猛暑対策は早期の解決が求められていると思います。							
独創性・ 先進性・ 優位性	中 村 部会長	菊 地 副部会長	麻 生 委 員	西 條 委 員		4	20%	16.0
	A	A	A	A				
	S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い 【中村部会長】 基本技術はすでに得られており、優位性が高い。 【菊地副部会長】 外気導入技術の実証などは独創性が高いと考える。							
市場性・ 成長性	中 村 部会長	菊 地 副部会長	麻 生 委 員	西 條 委 員		4.50	20%	18.0
	A	A	S	S				

	<p>S : 極めて高い A : 高い B : 普通 C : やや低い D : 低い</p> <p>【中村部会長】 施設園芸における安定生産技術や、断熱資材によるエネルギー使用量低減効果の知見は、現場のニーズが高く市場性は高いと思われる。</p> <p>【菊地副部会長】 断熱資材による暖房負荷軽減効果においては、2～3割の削減を目標としていると聞いたため、実現できれば市場性は高いと考える。</p> <p>【西條委員】 高騰する化石燃料の使用量削減に向けた技術、今後も続くであろう夏の猛暑への対策技術、収益の高い作物の安定生産技術はどれも園芸農家から技術開発のニーズが極めて高いものと思います。</p>							
実現可能性	中村部会長	菊地副部会長	麻生委員	西條委員		4.00	10%	8.0
	A	A	A	A				
	<p>S : 極めて高い A : 高い B : 普通 C : やや低い D : 低い</p> <p>【中村部会長】 これまで開発されてきた個々の技術が蓄積されており、実現性が高い。</p> <p>【菊地副部会長】 これまでも本研究に関する知見を蓄積しており、実現可能性に問題はないと考える。</p> <p>【西條委員】 実現する可能性は高いと思います。</p>							
人・予算・設備等の推進体制	中村部会長	菊地副部会長	麻生委員	西條委員		3.25	10%	6.5
	B	B	A	B				
	<p>S : 極めて高い A : 高い B : 普通 C : やや低い D : 低い</p> <p>【中村部会長】 本研究の遂行に問題無い体制だと思われる。</p> <p>【菊地副部会長】 妥当と考える。</p>							
							100%	86.5

*採点の計算方法：係数（S = 5点, A = 4点, B = 3点, C = 2点, D = 1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

総合評価	評価				評価平均	総合評価
	中村部会長	菊地副部会長	麻生委員	西條委員		
	A	S	S	S	4.75	S

評価基準：

S : ぜひ採択すべきである **A : 採択したほうが良い** **B : 計画を見直した上で、採択しても良い**
C : 採択の必要性は低い **D : 採択すべきではない**

*総合評価の計算方法：係数（S = 5点, A = 4点, B = 3点, C = 2点, D = 1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とする。

所	<p>【中村部会長】 本研究のテーマは、これまで取り組まれてきた試験研究における課題から抽出されたものであり、宮城の気候に対応した次世代施設園芸モデルを構築することを目指しています。目標の実現性は高いと思われ、優れた研究成果に期待します。</p> <p>【菊地副部会長】 生産者によってハウスの規模や構造は異なるため、本技術の効果もそれによって異なってくると考える。技術を導入することでよくなりました、にとどまらず、規模や構造によってその効果はどうことなるのかを定量的に示すことにより、より汎用性の高い技術を構築してほしい。</p>
---	--

見	<p>い。</p> <p>【麻生委員】 農家への普及を念頭に置いた研究を実施して頂きたい。</p> <p>【西條委員】 価格高騰による冬場の化石燃料の使用量の削減、気候変動にともなう夏場の高温対策、収益性の高い作物の安定生産技術の開発はどれも生産現場から求められているもので、生産者の経営安定のためにも県民の食を守るためにも重要な研究だと思います。</p>
---	--

研究課題評価表（事前評価）

課題コード	④	評価実施日	令和5年12月8日（金）		
試験研究課題名	土地利用型作物の病害虫防除技術の検討（重点的研究課題）				
試験研究機関名	古川農業試験場				
担当部署・担当者名	担当部（作物環境部） 担当リーダー名（小野 亨）				
研究期間	令和6年度～令和10年度				

項目別評価	評価項目	評価				係数平均	比重	採点
	研究目標のニーズ 適合性・ 地域への 貢献度	中村 部会長	菊地 副部会長	麻生 委員	西條 委員			
		S	S	S	S	5.00	20%	20.0
	<p>S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い</p> <p>【中村部会長】 カメムシ類は、水稲、大豆ともに主要害虫であり、品質低下を招くため、常にその効率的な防除技術体系を確立しておく必要がある。</p> <p>【菊地副部会長】 病害虫の発生は作物生産に多大な被害をもたらすことから、当然貢献度は高いといえる。</p> <p>【西條委員】 生産性の向上と環境負荷軽減の両立を目指した病害虫の効果的な防除技術を確立することは重要で、地域への貢献度は非常に高いと思います。</p>							
	緊急性・優先性	A	S	A	S	4.50	20%	18.0
	<p>S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い</p> <p>【中村部会長】 温暖化が原因と考えられる病虫害が増大してきており、早急に対応すべき課題である。</p> <p>【菊地副部会長】 温暖化に伴い、植物の生育条件や生態系のバランスが変化し、これまで確認されなかった病害中の発生リスクも増加していると考えられる。実際に多発事例も報告されているとのことなので、早急な対応が必要と考える。</p> <p>【西條委員】 県全域に拡大しつつあるクモヘリカメムシに対しての水稲の病害虫対策技術、大豆に発生するカメムシ類の防除技術は温暖化が進む近年、早期の確立が求められていると思います。</p>							
	独創性・先進性・優位性	A	B	A	A	3.75	20%	15.0
	<p>S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い</p> <p>【中村部会長】 効果の高い殺虫剤の選定だけでなく、被害の発生予測を行い防除の徹底を図ったり、優良品種の普及前に効果的な防除技術を確立する点で先進性がある。</p> <p>【菊地副部会長】 産地により発生時期や多発時期は異なることから、県内独自の発生実態調査を行うことには意義がある。</p>							
	市場性・成長性	A	A	A	A	4.00	20%	16.0

	<p>S : 極めて高い A : 高い B : 普通 C : やや低い D : 低い</p> <p>【中村部会長】 生産現場で求められている防除技術体系の確立を目指しており、市場性が高い。</p> <p>【菊地副部会長】 本研究により、適切なタイミングで防除措置を実施することが可能となり、作物への被害を最小限に抑え、農産物の収量や品質を向上させることが期待できると考える。</p> <p>【西條委員】 環境負荷軽減で防除のコストが削減され、生産性が向上すれば成長性は高いと思います。</p>							
実現可能性	中村部会長	菊地副部会長	麻生委員	西條委員		4.00	10%	8.0
	A	A	A	A				
	<p>S : 極めて高い A : 高い B : 普通 C : やや低い D : 低い</p> <p>【中村部会長】 これまでの研究成果を積み上げて試験研究が計画されており、実現性が高い。</p> <p>【菊地副部会長】 全国的な問題であるので、他県および農研機構などとも活発に情報交換を行い、効率よく推進していただきたい。</p> <p>【西條委員】 効果的な防除技術が確立される可能性は高いと思います。</p>							
人・予算・設備等の推進体制	中村部会長	菊地副部会長	麻生委員	西條委員		3.25	10%	6.5
	B	B	A	B				
	<p>S : 極めて高い A : 高い B : 普通 C : やや低い D : 低い</p> <p>【中村部会長】 5年間での試験計画で妥当な体制である。</p> <p>【菊地副部会長】 特に問題ないと考える。</p>							
							100%	83.5

*採点の計算方法：係数（S = 5点, A = 4点, B = 3点, C = 2点, D = 1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

総合評価	評 価				評価平均	総合評価
	中村部会長	菊地副部会長	麻生委員	西條委員		
評価	A	A	A	S	4.25	A

評価基準：

S : ぜひ採択すべきである **A : 採択したほうが良い** **B : 計画を見直した上で、採択しても良い**
C : 採択の必要性は低い **D : 採択すべきではない**

*総合評価の計算方法：係数（S = 5点, A = 4点, B = 3点, C = 2点, D = 1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とする。

所	<p>【中村部会長】 水稲、大豆とともに宮城県の主幹作物であり、品質の高い生産物を得るには病害虫の防除技術体系の確立が重要です。本研究では、最近の病害虫発生状況に応じた効率的な防除技術の開発のみならず、環境負荷低減も考慮しているほか、優良品種の普及前に効果的な防除方法を検討することを計画しており、その積極的な取り組み姿勢を評価します。</p> <p>【菊地副部会長】 本研究は、技術の確立とともに、生産者に分かりやすいマニュアルの作成や発生動態の周知方法の工夫が重要と考える。併せて検討をお願いしたい。</p>
---	--

見

【麻生委員】

緊急性が高い課題であると判断されるが、資料からは具体的な研究方法が読み取れなかった。

【西條委員】

昨年のも今までにない猛暑でしたが、気候の変動により今後も病害虫の発生リスクは更に高まっていくと思いますが、次世代に残す環境を維持するためにも農業現場での環境負荷低減を目指した病害虫の防除体系を確立することは重要だと思います。

化学農薬の使用量を減らし生産性を上げることは生産者には理想的なことであり研究の成果に期待したいです。